

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年1月31日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670200577
法人名	有限会社 あおい介護福祉会
事業所名	グループホーム あおいの家
所在地	鹿児島県薩摩川内市隈之城町1248番地1 (電話) 0996-20-3221
自己評価作成日	平成29年11月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成29年12月20日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・古い歴史のある静かな住宅の一角の良い環境で近くには温泉施設や公園などあり、利用者様と共に散歩したり、家族の面会時は温泉施設に隣接している食堂で利用者様とその家族でのんびりした時間を過ごされております。

・毎年、近隣の保育園と親交を深め園児の歌や踊りなど楽しまれ、お互いプレゼントの交換等を行い利用者の方々の笑顔も見られ楽しい雰囲気の中で過ごされております。

・地域の方々の協力で旬の野菜、果物等を頂き美味しく食事をされております。

・近隣の方の協力でサツマイモの収穫時期など、他のホームの方々と共に招待され、会話など楽しみのある時間を過ごされ、お互いの親交を深めております。

・利用者様が日々、楽しく有意義に生活できるように努めております。

・利用者様とスタッフで四季折々の飾り付けなど一緒に制作して施設空間に貼り付けるなど一緒に楽しい時間を過ごしております。

・スタッフは朝のミーティングや職員会議等で個々の状況にあうケアに努めております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○薩摩川内市の南部に位置する隈之城地区に平成14年に開設されて以来、地元住民や保育園児、他グループホームとのふれあい・交流等を通じて地域社会の一員としての役割を果たしながら地域に根づいたサービスを展開している。今年4月には、新ユニットが開設されており、更なるサービスの質の向上と地元へ愛される施設づくりに努めている。施設は旧国道3号線より路地を入った住宅地であり、近隣には、温泉施設や公園・小学校等があり、緑豊かな自然に囲まれた静かな環境の中にある。

○24時間体制でのかかりつけ医や協力医療機関との連携によって管理者を中心としたチームケアが長年に渡り構築されている。自然な流れで終末期を迎えられるようターミナルケアまでの支援体制が各関係者と構築されている事で、利用者・家族が希望するサービス提供が実現出来ている。内部研修等にてスキルアップを図りながら更なるケアの向上に努めている。

○管理者や代表者は新ユニットでの職員体制によるサービス提供が円滑に運営されるよう勤務変更や個別相談、職員会議等によって、意志の疎通を図りながら、現場職員との信頼関係を構築している。身体・精神機能の低下による介護の重度化によってもたらされる利用者・現場職員への介護負担が軽減されるよう、新ユニットには車椅子レベルの利用者でも安心・安全に入浴が出来る設備が整えられている。常に事業所理念に基づいた総合的なケアが利用者・家族の意向や希望とマッチングするよう、サービス内容の見直しを図りながら支援に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者の方が地域社会の一員としての自覚を持てる、ゆったりした環境の中で笑顔で安心して生活が送れるように職員一同が理念を共用し実践に努めている	家庭的な雰囲気の中で利用者のペースで毎日安心して生活が笑顔で送れるよう、健康の維持管理に努めながら、利用者の気持ちに寄り添い、温かい真心のこもった支援を心がけている。毎年度の施設目標の達成に向けて、管理者と職員が支援体制の見直しを行い、朝礼での理念の唱和を利用者と共に行う事で、理念の共有を図りながら実践に生かした支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域住民が足を運びやすい環境整備を行っている。清掃作業等に参加し、地域住民との交流を図っている。	自治会に加入し、地域の様々な行事への参加や他のグループホームとの親睦、保育園児との世代間交流、ボランティアからの踊りの慰問、温泉施設への買い物、近隣の公園への散歩等によって地元との信頼関係の構築を図り、地域社会の一員として心のふれあいや交流を積極的に行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	日常的ではないが、地域に方々の支援により、行事等に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回運営推進委員会は行われており、ホームの行事計画やサービスの情報提供を行い、資質の向上を図っている。年に数回資料に基づき認知症についての理解や意見交換を行っている。</p>	<p>市役所、民生委員、自治会長、家族代表等の参加で定期的に開催され、サービスの現状報告等について説明し、グループホームについての概要や認知症ケアについての勉強会を行うなど、運営推進会議を活かした取り組みを行っている。出された課題については、職員会議やミーティングにて業務内容の見直しを図り、改善・向上に努めている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進委員会も含め、各申請時や電話等にて、情報や相談及び指導を受けている。</p>	<p>新ユニットの開設に伴い、市役所担当者との連携・協議、運営推進会議への定期参加、保護課からの生保利用者の入所相談、介護保険申請、グループホーム連絡協議会への参加等、市町村との協力関係を深めながら、サービス提供に努めている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>初めての施設入所持等は、施設の理解もなく帰宅願望等があるが、家族や親戚等の協力を得て落ち着いて貰うなどして、施錠など身体拘束をしない取り組みを実施している。</p>	<p>身体拘束についての内部研修や勉強会によって、虐待防止まで含めた認知症ケアについて正しい知識と実践に伴うケース対応を全職員が理解しスキルアップを図る事で、身体拘束をしないケアについて共通認識を図り、スピーチロックや玄関の施錠等、行動制限となる支援の防止に努めながらその人らしく日常生活を送る為のサービス提供を行っている。身体機能低下による介護の重度化や精神疾患に伴う、メンタルケアのアウトリーチ等について、常に利用者の状態把握に努めながら、職員会議やミーティング、ケアプランの見直しを行う事で、支援内容やサービスが適正に提供されているかチェックし、よりよい支援が実践出来るよう取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修等において勉強会など行い、身体的・精神的・言動的虐待が行われないように努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護については、殆どの職員が把握しておらず、学ぶ機会も現在のところ設けていない。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居にあたり利用契約書に基づき十分な説明と理解をして頂いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者やホームのサービス向上を図るため意見や助言、提案を傾聴し更なるサービスの向上に努めている	日常生活支援や普段の面会等にて、利用者・家族から意向や希望の聞き取りを行い、アセスメントやモニタリングによる身体状況の把握や家族との意見交換によって個々のニーズを具現化出来るようにサービス担当者会議や職員会議、ミーティングにて課題を分析し、支援体制の見直しを図る事で、サービスの質の向上と事業運営に反映させている。意見箱の設置やホーム便り、毎月、身体状況の経過を文書報告する等、遠方の家族についても、密な連絡調整を行い、運営に関する要望や意見が反映出来るよう信頼関係を構築している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関する検討会は開いていないが、月1回の職員会議を開催しているが、運営に関する意見は少ないが、代表者が年に数回会議に出席され、運営方針を話されている。	管理者は新ユニットの開設に伴い、職員配置とよりよい職場環境づくりに向けて働きやすく、円滑な意見交換や意志の疎通を図れるよう、職員への声かけを行いながら信頼関係の構築を図っている。現場からの運営に関する意見や提案については職員会議やミーティングにて協議し、業務改善に努める事でサービスの質の向上と事業運営に反映させている。職員との個別面談や勤務変更への対応、外部研修やスキルアップの為に資格取得など事業所のボトムアップにも積極的に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は頻繁に現場に来て職場で色々な出来事を報告し、実情を理解されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>、職員の知識向上のため、職場での勉強会及び各研修においても積極的に受講させ、資質の向上を図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者同士の情報交換の交流はあるが、ネットワーク作りや相互訪問等の交流は出来ていない。</p>		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居相談及び及び入居前の契約時にホームにて本人と家族に面会し、環境の確認など順応性を見極めを本人にしてもらい、本人が安心して受け入れて貰えるように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の困っていること、不安なことを傾聴し信頼関係を築くようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居にあたってのアセスメントを行い、現状把握をし、他の施設への検討したりして対応に努めている。</p>			
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>認知症を患っている高齢者が共同生活を円滑に行えるように職員は信頼関係を築こうと日々努力を行っている。</p>			
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族が遠方在住でなかなか面会できないご家族には電話連絡や文書にて随時現状報告をおこなっている。また、同市内に居住される家族には定期的に訪問してもらっている。</p>			
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>環境の変化に伴う不安感や心身虚弱化を防止するためにも、本人が以前住んでいた場所等、ドライブをしている。</p>	<p>利用者のこれまでの地域社会との関係性や生活スタイル等をアセスメントし、なじみの人や場所との継続した支援が図れるよう家族や地域住民と協力しながら支援に努めている。ドライブ・温泉施設への買い物・近所の公園への散歩等、心の交流を大切に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の場になっている食堂兼ホールでの配席は、人間関係の構築の場として特に重要視し、配慮した工夫を必要ごとに行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院での退所後は、入院先に出かけ療養の様子を伺っている。又退院後の施設相談を家族や病院ワーカーから受けることもあり、出来る限りの支援に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成及び見直し時期には必ず、本人の意向を傾聴し、思いの訴えない方には家族の意向等を勘案し、本人の立場にたった意見を出し合い検討している。	日々の暮らしの中から利用者の言動、家族からの情報提供を元に思いや希望に沿ったサービスが実現出来るように職員会議やミーティング、各種会議にて協議し、ケアの方針を共有化する事で自分らしく生きる為の支援を行っている。利用者本位の支援が困難な場合は、各関係者と協力・連携を図り、目標達成へ向け取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の1人ひとりの人生の背景を考慮し、その人それぞれに添うサービスが実践できるように家族や関係者から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が出来ること、出来ないことを把握し、その有するの能力が発揮できるように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の現状把握を行い、家族との連携を図りながら、本人の意向を重点におき、朝のミーティングや職員会議等においてモニタリングを行い、職員一同の意見を交えながら入居者の介護計画を作成している。	利用者・家族の希望や思いを実現・達成する為、主治医をはじめ現場職員・各関係者がチームとなり、アセスメントによる課題分析やモニタリングによるサービス内容の見直しにてマッチングする支援を協議・検討する事で、現状に即したケアプランを作成している。身体状況の変化に伴い、サービス内容の変更・追加を常に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1人ひとり日々の体調面、精神面、ケアの実践等を個別に記録し、その内容について職員間で共有しながらケアに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身および身体の変化に合わせて柔軟に対応するように職員一同が心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域に馴染んだ環境を活用し安心して過ごせるように努めている。頻繁ではないが温泉施設等に地域の物産など見学に同行し、買い物など一緒に行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携は、十分に行っており、緊急性および急変事の対応や連絡は的確に行い、受診時は必ず、職員が行っている。	利用者・家族の希望するかかりつけ医への継続受診の為、管理者等が中心となって日頃から主治医との連携を密に図り、申し送りやミーティング、支援経過記録等にて、現場職員とのケアの共有に努めながら支援に取り組んでいる。他科受診への対応や受診後の家族への報告も常に行いながら、24時間体制での協力医療機関からのバックアップ等にて万全な医療支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>朝のバイタル時や、精神状態、入浴時などの観察を含め特別な変化に気をつけり、異常の兆候があれば、管理者に報告、適切な受診を受けられるよに支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院による医療機関との連携は入院後随時情報の把握として常に面会時に行い、医療関係者との情報交換を行っている。また退院を想定した援助にも努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ホームの方針は、医療機関にお願いしターミナルケアについては取り組んでいないが、家族の要望があれば、事業所でできる事を十分に説明し了解を取り、主治医との話し合いにより、ホームで介護可能な場合、協力医との連携を取りチームで支援している</p>	<p>重度化や終末期のケアについては事業所の指針を、契約時及び身体のリハビリ時に説明して支援内容に関する理解を得ており、同意書も貰っている。身体・精神機能の低下による介護の重度化に伴い、各種会議やミーティングにてサービス内容の見直しやケアの方針を協議し、サービスの共有を図りながらチームケアに努めている。看取りやターミナルケアについては、協力医療機関との万全なバックアップ体制が構築されている事で、自然な流れでの最期を迎えられるよう研修等にて職員個々のサービスの質の向上とスキルアップに努めながら、安心・安全に支援出来るように取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホーム内研修等を活用し、利用者に対する急変事時対応等の研修を行っている。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を実施している。災害発生時には自治会や周辺の方々に協力依頼をお願いしている。	年2回、火災時の避難訓練を夜間想定にて消防署の立ち合いにより実施している。より実践に近い取り組みにて職員個々の防災対策への知識とスキルを高める事で、緊急時対応への共通認識を図っている。消防設備の取り扱い・点検・整備や備蓄・備品等についても常備され、地域住民との協力体制についても構築されている事で、事業所全体で施設安全への対策に取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修や、朝の朝礼等で話し合いなど行いプライバシーの確保や利用者への接遇向上に努めている。	利用者の尊厳と基本的人権を尊重したサービス提供の為、プライバシー保護や自尊心に配慮した声かけ・支援に努めている。事業所理念に沿った実践が出来るよう、利用者の個性を大切に認知症ケアや接遇等の研修・指導にて職員個々のスキルアップに努めながら、安心・安全なサービス提供を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方の思いや希望を確認しながら、声かけえを行い自己決定してもらっているが自己決定の不可能な利用者対しては職員間で情報を共有して対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員に業務に合わせるのではなく、基本的に利用者の生活リズムに職員が合わせるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者の個性や尊厳を重視し、在宅での服装に近い物を準備して貰っている。また、それに向けての支援も行っている。家族にも援助をお願いし対応出来ている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好を把握しており、季節にあった家庭的な料理を食べてもらっている。食事の後片付けができる方には、手伝ってもらっている。	利用者の食事へのアセスメントで食事形態、栄養バランス、嗜好、アレルギー、食事制限の把握に努め、食事動作能力に応じた食事介助を行っている。家庭菜園で採れた野菜や旬の食材を利用した料理や郷土料理、季節に応じた行事食等、職員も一緒に団欒しながら食事を摂る事で利用者が楽しみとなるような食事の支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量のチェックを行い、1人ひとりの体調面を把握している。午前、午後にお茶の時間を設けており、水分等を摂ってもらえるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い自分でできる方は自分で行ってもらい、磨き残しのないように一部介助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立の方が2名を残し、その他の入居者の方は一部介助を行っている。夜間等はポータブルトイレを使用される方も数名。日中はトイレでの排泄援助を行っている。	利用者の排泄パターンや生活習慣に合わせ、日中は出来る限りトイレ誘導を促すことでオムツ使用に依存しない排泄の自立に取り組んでいる。排泄困難の利用者については、身体状況に応じて主治医の指示のもと医療的処置にて排泄を促している。失禁や排泄を失敗した利用者については、清拭や洗身への対応を図り、自尊心やプライバシーを侵害しない声かけや支援を行っている。ポータブルトイレや排泄チェック表についても置き場所や保管に配慮した取り組みを行っている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方はかかりつけ医と相談の上服薬管理を行い、排便チェック、主治医の指示による排便コントロールや水分補給など適度な運動への働きかけを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は午前中に行い、1人の方に対し週3回の入浴の実施を行っている。それ以外汚染された方は曜日を問わず的確な対応を行っている。	入浴については、バイタルチェック、全身観察、水分補給等のルーティンチェックを行い、週3回個浴にてサービス提供を行っている。失禁や排泄汚染の利用者については洗身・清拭を必要に応じて行い身体清潔に努めている。入浴への拒否が見られる利用者については、声かけのタイミングを工夫する等して入浴を促している。入浴日でない曜日は部分浴や陰部清拭を行い清潔保持に努め、軟膏塗布等については主治医の指示のもと支援に努めている。入浴剤の使用等により入浴が楽しみとなるような支援にも取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のリズムに合わせた支援で休息や睡眠をしてもらっている。体操やレクリエーションなど以外は殆ど自由な時間として入居者の皆様には過ごしてもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人台帳に薬の説明書を添付し、随時確認出来るようにしている。臨時処方は管理者が連絡帳に記載し、報告している。特に臨時薬の副作用等に注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に沿った役割として洗濯たたみや掃除、また草取り等を行って頂いている。気分転換に散歩など取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個別で散歩を希望される時には随時対応できるように努めている。本人希望の外出は家族の協力をもらい外出するようにしている。	温泉施設への買い物や近所の公園への散歩、ドライブ、地域の自治会より招待された行事での、他のグループホームとの交流、季節に応じて初詣や花見等、家族や地域が共に協力しながら日常的な外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持たれている方は数名おられ、うち買い物され自己管理されている方は3名である。買い物がある場合職員の付き添いで支援している。その他金銭管理が出来ない方が殆どで事務所で管理している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や知人との連絡を希望されるときは常に援助を行っている。認知面で手紙のやり取りは難しいが電話での援助を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場としての環境は利用者が落ち着かれるような飾り付けや雰囲気作りを行っている。	施設は木造の平屋作りで、エントランスは利用者や訪問者の出入りがスムーズに出来るよう十分なスペースが確保され、施設周辺は家庭菜園やプランター等、緑豊かな木々に囲まれており、静かな環境の中で毎日過ごされている。施設内は木材をふんだんに使用し、温もりに満ちた印象でホールは天井が高く、ゆったりとした雰囲気の中で食事等を楽しめる。四季に応じた飾りつけや花々の配置、利用者の作品の掲示やカレンダー、写真等によって季節感や生活感を与えている。また、各ユニットにソファが置かれており、くつろぎの場となっている。空気清浄機や空調設備によって不快な刺激を与えず、電子ジャーで温めたおしぼりを清潔保持に使用する等居心地のよい共用空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置、思い思いの場所で過ごせる。また入居者同士でのお喋りや、ゆっくりテレビを見たり一人で自由に過ごせる環境作りを行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の居室は個人の使い慣れた家具等を設置し、安心して過ごせるように配慮している。</p>	<p>居室入り口には暖簾がかけており、家族・面会者との談笑がリラックスした中で出来るようプライバシーに配慮されている。ベット・エアコン・タンスが完備され、利用者になじみのある私物を家族と一緒に配置する事で、居心地よく過ごせる居室の工夫に努めている。また、家族の写真や花、自分の作品等を自由に飾りつけする事で、施設での生活が楽しみとなるように心がけている。その他、体動著明な利用者については、センサー対応にて安全対策を図っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全に自力移動が出来るように手すりを設置し、自分の居室がわかる名前と写真を表札代わりにして自分の部屋を確認し、入れるように自立した生活が送れるように工夫している。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない